

# ワンポイント事例

## 2 話をすることが苦手



学校生活の様子

Kさんは、話好きで、自分から先生や友達に話しかけますが、話の内容が断片的で順序性がない、内容が飛躍する、言い間違いが多いなどのため、相手から「何を言っているのか分からない。」「もう一回言って。」と聞き返されることが多いため、最近では、話を途中でやめたり、黙り込んだりします。

実態把握

言葉の意味の理解が不十分で、語彙が少ない。  
前にあったことを思い出して話をすることが苦手である。

一方的に話す、話を聞かない等、うまく会話ができない。  
話をしている間に、周囲の物や動きに注意がそれてしまう。

比喩や慣用句の意味が分からない。  
含みのある言葉、冗談などをそのまま受け取ってしまう。

考えられる支援の手立て

- ◇ 実物や実際の動作、写真や絵などの視覚情報を活用する。
- ◇ 5W1Hの会話パターンを練習する。
- ◇ 教師が正しい言葉で話しかけたり、教師の話をもつて復唱させたりする。
- ◇ 話のキーワードを整理して話す練習をする。
- ◇ じっくり話を聞き、随時、適切な言葉に言い換えて示す。

- ◇ 聞き手と話し手の役を決めて、交互に話す練習をする。
- ◇ 話題を意識させたり、注意を喚起したりする言葉がけや視線での合図などをする。

- ◇ 絵や言葉による具体的な説明をもとに、場や相手との関係等から、比喩や慣用句の意味を理解させる。



その他の支援のポイント

- 教師自身が正しい言葉と文で話しかける。
- 児童生徒が話した内容のポイントをおさえ、キーワードで整理して示すなど、児童生徒が話したい内容を確認する。
- 児童生徒が話をしやすいように、実物、写真、絵などを用意する。
- 発表の際には、話したいことをあらかじめ書いて整理してから、発表するようにさせる。
- 「て、に、を、は」や接続詞の使い方、発声、単語、文、文章の構成など、言葉の発達の状況を確認する。



### 【個別的な支援の方法】

- 語彙を増やすこと、順を追った話ができるようにすることを主なねらいにする。
- 言葉についての関心を高めるため、「しりとり」、「なぞなぞ」などの言葉遊びをする。
- 話の順を視覚的にとらえることができるように、話を絵にし、絵を見ながら順を追って説明をさせる。
- 「いつ」、「どこで」、「だれが」、「何を」、「どのように」等の項目を示し、話の仕方をパターン化して練習する。また、朝起きてからの出来事を順に話をする練習をする。
- 身近な生活場面を取り上げて、場面の状況やそのときの登場人物の気持ちを考えるようにさせる。